

きれい 甲斐

No.33 FEBRUARY 2006

環境パートナーシップやまなしは、県民・事業者・行政のパートナーシップ（協働）のもと、団体間の連携や情報交換の場づくりなどを通じて、自主的な環境保全活動を積極的に展開していくことを目的として様々な活動を行っています。環境保全に関する活動を積極的に行っている団体、個人のみなさまのご入会をお待ちしています。

環境パートナーシップやまなし

事務局 ●〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1丁目6-1 山梨県循環型社会推進課内
TEL.055-223-1506 FAX.055-223-1507 〆junkan@pref.yamanashi.lg.jp
URL <http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/junkan/60200266375.html>



古紙配合率100%再生紙を使用しています

発行責任者 ● 広報専門部会長 渡辺一彦

「ごみ持ち帰りのパレード」を行いました!

第20回県民の日記念行事が、11月12日（土）、13日（日）に小瀬スポーツ公園で開催され、当会においてもその中の環境広場に出展しました。

環境意識の啓蒙を目的として環境に関するクイズを行い、2日間で約600名の参加があり、全問回答した方に記念品を贈呈しました。

今年は新たに「ごみ減量推進運動」として、ネットワークづくり専門部会を中心に、出展者にチラシの掲示を依頼するとともに、両日の午前・午後の計4回、手作りのプラカードを持ちながら、来場者にごみの持ち帰りを呼びかけるパレードを行いました。また、飛び入り参加でブラジルから留学に来ている女性にも参加していただき、メガホンを持って呼びかけてもらおうと、一層来場者の注目を集めました。

ごみ拾いをしながらの行進だったため、ごみを拾ってきてくれた女の子や、「ご苦労様」と声を掛けてくれた方がいたり、今回のパレードは来場者のごみ持ち帰りの意識啓発に多少なりともつながったと思います。



クイズラリー



パレード



牛乳パックの再利用を考える全国大会 第20回山梨大会



☆☆はじめの一步はもったいない 発祥の地からつなぐじゃん!☆☆

日時：平成18年7月29日（土）、30日（日） 場所：甲府市総合市民会館

1984年に大月市で主婦グループが始めた使用済み牛乳パックの回収運動は、第1回の全国大会（大月市-1987年）を経て、全国的に広まり、定着してきました。

そして、20回という記念大会が、再び発祥の地・山梨で開催されることが決定しました!!

現在、実行委員会を立ち上げ、開催に向け準備を進めています。この大会には当団体の会員も多数関わっており、大会の成功に向けてサポートしていくことになりました。皆さまのご協力をお願いします。



大会会長 平井 成子（全国牛乳パックの再利用を考える連絡会代表）
実行委員長 飯窪さかえ（山梨県女性団体連絡協議会）
副実行委員長 鈴木 嘉彦（山梨大学大学院教授） 依田 茂己（山梨県青少年団体連絡協議会）
入倉 基公（山梨県商工会連合会） 米山けい子（生活協同組合コープやまなし）
事務局 岡 尚志（山梨県ボランティア協会）

※下線はパートナー企画委員

●問い合わせ先●

牛乳パックの再利用を考える全国大会
第20回山梨大会 実行委員会事務局
TEL:055-243-6433 FAX:055-243-6359
E-mail: pack-20th@hss-web.jp

県民参加型環境保全事業 「サマーエコチャレンジ2005」実施結果を報告します！

事業内容

本団体会員（団体会員の構成員を含む）及び一般県民各世帯、事業所において、8月から9月の間の1検針期間、参加者自身が設定した昨年同時期に比べた削減目標を達成するため、節電に取り組んでいただきました。

これは、私たち県民一人ひとりのライフスタイルや事業活動を、環境負荷の少ないものへと転換するきっかけ作りを目的としています。

実施結果

今年の夏は、昨年と比べ7月は比較的に涼しかったものの、8月の平均気温は27.2℃（甲府気象台）と昨年8月（26.1℃）に比べ約1℃高く、節電にチャレンジするには大変むずかしい状況でありました。

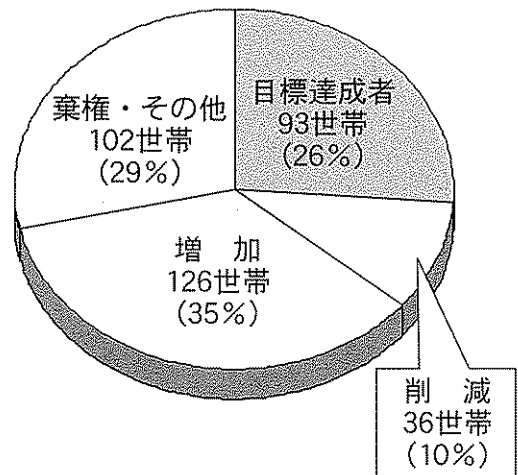
そうした状況にもかかわらず、個人部門では129世帯（36%）が昨年より使用量が減り、うち93世帯（26%）が見事に削減目標を達成しました。

テレビなどのコンセントを抜いて待機電力の削減に努めたり、部屋の明かりをこまめに消すなど、ちょっとした心がけの積み重ねが、着実な削減に結びついているようです。

こういった取り組みは、あまりがんだり過ぎると、一時的なもので終わってしまうことも考えられます。少し長い目でみて、楽しみながら継続していくことが大切です。

事業所部門では、「クールビズ」効果により、ノーネクタイによる軽装やエアコンの温度を常時28℃にするなどの取り組みが行われています。また、節電に取り組むためには、お客様の理解を得るなかで社員一丸となって取り組むことが必要なようです。

参加者数 357世帯



参加者の取り組み

（個人部門）

- ・家族でなるべく一部屋で過ごすよう心掛けた。
- ・お風呂の水を打水として利用した。
- ・待機電力を削減するため使用していない電気は元からコンセントを抜きました。
- ・エアコンの使用は温度設定を1, 2℃上げ、扇風機を併用した。
- ・昼間は、子供を連れ図書館や水辺のある公園で過ごしました。
- ・トイレの便座は利用時間帯のみプラグを入れた。
- ・電気量の使用実績を調べ、契約内容を50Aから40Aに変更した。

（事業所部門）

- ・クールビズを実践し、冷房温度を28℃にした。
- ・昼休みの事務所内の照明やパソコン等の消灯を徹底した。
- ・食堂にある自動販売機の1台を18時以降、コンセントを抜いた。
- ・エレベーターの使用は控えるようにした。
- ・会議室など常駐しない部屋と事務室との空調分離工事を実施した。

実績データ (カッコ内は、昨年度のもので)

●個人部門

- ★参加世帯数：357世帯 (271世帯)
- ★前年比減少世帯：129世帯 (90世帯)
(うち目標達成世帯数：93世帯 (75世帯))
- ★平均削減率：0.27% (▲3.89%)
- ★優良取組世帯 5世帯 (12世帯)
(達成率・使用量・取組内容等を総合的に評価し、取組みが優良な世帯)



●事業所部門

- ★参加団体数：10事業所 (11事業所)
- ★前年比減少事業所 7事業所 (5事業所) (うち目標達成世帯数5事業所 (5事業所))
- ★平均削減率：2.96% (▲1.01%)

参加事業所 (順不同)

- | | |
|------------------|--------------|
| ●東京電設サービス(株)山梨支社 | ●東電広告(株)山梨支社 |
| ●ダイドードリンコ(株) | ●NTT山梨支店グループ |
| ●東電不動産(株)山梨支社 | ●東京ガス(株)甲府支社 |
| ●秋山土建(株) | ●(株)山梨中央銀行本店 |
| ●住友信託銀行(株)甲府支店 | ●(株)NTTドコモ |

使用済み割り箸回収の取り組み

小淵沢町商工会

日本で一年間に使われる割り箸の量は250億膳、一人当たり平均200膳だそうです。この量は木に換算すると約80万本にもなるものです。

現在、日本で使用されている割り箸は価格や人件費の安さから、ほとんどが中国から輸入されています。ちなみに中国では割り箸を使う習慣はありません。もっぱら日本への輸出です。

中国の割り箸の生産方法は、皆伐方式という方法で、山の木を丸ごと切り倒していくというものです。さらに、木を切り倒した後の土地は植林をしないので、森林は減少するばかりです。

こうした現状を知り、さらに世界中で環境破壊が問題視され始めた平成9年より、小淵沢町商工会でも何か環境への取組みができるのではないかと考え、使用済み割り箸回収を行うことになりました。

小淵沢町には飲食店が多く、使用される割り箸の量もそれに伴い多くなります。割り箸を回収することによって、その分ごみも減ります。ごみが減れば、焼却によって排出される二酸化炭素も減るし、処分費用も減らすことができます。さらに、新たな紙の材料としての森林伐採も減らすことができます。

回収方法は、事業所や一般家庭から使用済み割り箸をダンボールに詰めて商工会へ持ち寄ってもらい、ある程度集まったところで製紙工場へ送ることにしています。

なお、参考までに割り箸だけで紙製品を作ったと仮定した場合の換算値は、おおよそ次のとおりです。

割り箸10kg (大型ダンボール1箱分) …ボックスティッシュ15箱

割り箸3膳 (6本) ……はがき1枚、またはA4のコピー用紙1枚

割り箸100膳 (200本) ……週刊誌1冊分の紙

「環境日本一やまなしエコエネルギーコンテスト」開催

県循環型社会推進課

豊かな自然環境に恵まれ、「環境日本一」を標榜する山梨県では、化石燃料に頼らない再生可能なエネルギーの実用化と県民の環境意識の啓発を目的に、平成17年11月20日（日）、「環境日本一やまなしエコエネルギーコンテスト」を開催しました。

会場となった笛吹市スコレーセンターには、約500人が訪れ、県内外の18チームが技術やアイデアを競いました。

【アイデア部門】

エコエネルギーの活用方法に関する新しいアイデアの発表を、15分のプレゼンテーションにより行いました。

| 賞 | アイデア部門参加団体名 | アイデアのタイトル |
|---|---------------|---|
| 金 | 生活協同組合コープやまなし | ソーラー施設（街路灯や夜間の道路標識）や風力発電施設（小型）への非常電源設備の設置について |
| 銀 | 東北学院大学 | ソーラーエネルギーを利用する電動式「ソーラーカート」 |
| 銅 | NPO法人みどりの学校 | サッカースタジアムが、「環境日本一やまなし」の環境と観光のシンボル |
| | | がんばれ！！ヴァンフォーレ甲府！ |
| | NPO法人フィールド'21 | 水力空気発電 |
| | ㈱マツイ電設工業 | 市有林園地 活性化計画案 |
| | ミサワ環境技術㈱ | 地中熱利用ヒートポンプシステム |

| 賞 | ソーラーカー部門参加団体名 |
|------|-------------------|
| 金 | 栃木県立真岡工業高校 |
| 銀 | 宇都宮大学 |
| 銅 | 山梨県立産業技術短期大学Aゼミ |
| アイデア | 山梨県立甲府南高校Aチーム |
| デザイン | 東京農工大学 |
| | 愛知工業大学 |
| | 京都府立田辺高校 |
| | 山梨県立甲府南高校B/Cチーム |
| | 山梨県立産業技術短期大学B/Eゼミ |
| | 山梨大学 |

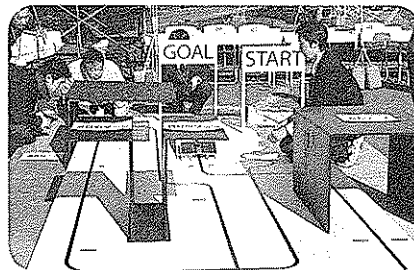
【ソーラーカー部門】

県内外12チームが参加し、太陽の光を遮るゾーンや、カーブやアップダウンのある全長約16mのコースで、それぞれが持ち寄った自律式ミニソーラーカーを制限時間3分以内で走らせるタイムトライアルに挑戦しました。

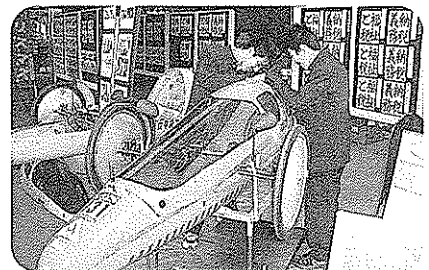
競技は屋外で実施され、雲がひとつあるだけでもレースに影響するため当日の天候が心配されましたが、素晴らしい秋晴れの中、行うことが出来ました。

各参加チームは、スタート直前まで愛車の調整をしていましたが、スタート直後にタイヤが外れてしまったり、上り坂を上げなかったりといったアクシデントが続出しました。

太陽光発電など再生可能なエネルギーの活用は、「日照時間日本一」の豊かな地域資源を誇る山梨県ならではの取り組みであり、この催しを通じて、地球温暖化防止などの環境保全意識の向上に寄与することを期待しています。



ソーラーカー競技



ソーラーカーの展示

●投稿募集中

I. 会員紹介コーナー【投稿要領】

- ①スペースはA5判程度で、500～600字の原稿と写真1枚です。②団体等の名称、所在地（事務局または事務所等）、連絡先を必ずお書きください。③内容は、活動紹介やPRなど自由ですが、他の団体、個人等の批判はしないでください。④締め切りは特にありません。

II. 行事予定【掲載内容】

- ①団体名、日時、場所、内容、申込み方法、連絡先等です。

【投稿先】

〒400-8501 甲府市丸の内一丁目6-1 山梨県森林環境部循環型社会推進課内 「環境パートナーシップやまなし」事務局
TEL 055-223-1506 FAX 055-223-1507